みのむかし話

その３

弥谷さんのむかし話

弥谷の猫又／弥谷の大蛇

弥谷の猫又

昔、弥谷寺の檀家に死人がいました。葬式の前日に猫又が弥谷のおじゅっさんの所へ来て、「あしたの葬式には天霧山の猫又と、わしら弥谷の猫又が死人を取ることになっていた。天霧の猫又が都合で来られなくなったので、わしらだけで取ることになった。そんで、あした夕立を降らすから雨具の用意をしてくるように講中の人に触れておいてつか。そんで夕立の最中におじゅっさんは棺桶の端を数珠で叩いてつか。ほんだら夕立もすぐ晴れるし、わしらも棺桶を取らずに死人をもらって帰るからよろしく。」といったそうな。そこでおじゅっさんは、猫又のいったとおり手配をしました。

さて葬式の当日、講中の人はおじゅっさんにいわれたとおり雨具の用意をして来たのに、上天気でねっから雨が降りそうにないので、馬鹿にして笑っておりました。ところがお経をあげる時になって急に雨が降り出しました。講中の人は雨具の用意をして来とったので喜んどったら、おじゅっさんが棺桶の端を叩くと同時に雨はたちまち止んでしもうた。

そこにいた悪さをした猫又は片目になってしもたというこっちゃ。

※猫又とは、尾が２本に分かれている猫の妖怪。山に棲むものと、飼い猫が年を経て猫又に化けるものと二種類いると言われています。二本足で歩き、人間の言葉を理解し、化ける能力をもっているものもあります。性格は人間に似て多種多様。凶暴で人畜に害を為す猫又もいれば、元の飼い主に恩返しをする穏やかな性質の猫又もいるようです。

※おじゅっさんは、住職さんやお寺さんと呼ばれることもあります。

参考文献:三野町誌昭和五五年発刊一〇二五～一〇二六Ｐ

弥谷の大蛇

弥谷寺の大師堂の奥に獅子窟があります。その洞窟の上に弘法大師の水場があります。その左には久保谷境の峠池から見立の浜につながっているといわれている大きな岩窟があり、その先には西方浄土すなわち極楽があると言い伝えられています。

その岩窟に大蛇がすみ、ある時仁王門の上方にある賽の河原や法雲橋に続く谷に大蛇が現れたが、住職が読経するとその姿は消えたということです。

※法雲橋とは、三途の川にかかる極楽に通じる橋。善行を積んだ人だけが渡れると言い伝えられています。

※賽の河原とは、死んだこどもが行くと言われる冥土へ通じる三途の川 の河原です。ここで、こどもは父母の供養のために小石を積み上げ塔を作ろうとするが、絶えず鬼に崩されてしまいます。そこへ地蔵菩薩が現れてこどもを救ったと言い伝えられています。

参考文献:三野町誌昭和五五年発刊一〇二六Ｐ